

ユニツイン／ユネスコチェア事業について

知の交流と共有を通じて、高等教育機関及び研究機関の能力向上を目的とする、ユネスコのプログラム。高等教育機関の国際的な連携・協働を促進することにより、人的・物的資源のシンクタンクとして、また教育・研究機関、地域コミュニティ、政策立案者間の橋渡しの存在としての役割を担うことを目指す。1992年にユネスコで創設。

1. 事業形態

① ユニツイン(UNITWIN: University Twinning、大学間ネットワーク)

: 合計 **46** ネットワーク(2021年12月時点)

- 複数国に所在する複数の大学または高等教育／研究機関(3－10機関)から成り、ネットワーク全体として、ユネスコと協定を締結
- 同じテーマに取り組む既存の複数のユネスコチェアがユニツインとして申請すること、また、既存の大学間協定のネットワークを拡充してユニツインとして申請することも可能
- 4年ごとに更新(※2018年1月以前のガイドラインでは、協定期間は6年)

② ユネスコチェア(UNESCO Chairs、ユネスコ講座)

: 合計 **877** 講座(2021年12月時点)

- チェアホルダー(責任者)、講師、研究者、学者から成る新たな教育・研究ユニットとして、大学または他の高等教育機関に設置
- 大学の部局内に新たに設置、または既存のプログラムの拡充により設置が可能
- 大学の学長とユネスコ事務局長の間での覚書署名により発効
- 4年ごとに更新

2. 対象機関

- 大学又は高等教育・研究機関
- 高等教育・研究分野で活動している NGO[※]
- その他学術研究機関[※]

※ ただし、ユニツイン又はユネスコチェアを設置できるのは、大学又はその他の高等教育機関に限る。

3. プロジェクトの実施

- 中間年レポートと最終レポートをユネスコ本部に提出
- ユネスコのロゴの入ったロゴを使用可能
- ユネスコからの財政支援は行われない
- 協定終了日の6か月前までに、ユネスコへ協定更新手続きの申請が必要

4. 我が国におけるユニツイン／ユネスコチェア事業

(1) ユニツイン

- ① 斜面災害・水災害に関する研究・教育ネットワーク(京都大学)
- ② 教育開発のためのアフリカ・アジア大学間ネットワーク(広島大学)

(2) ユネスコチェア

- ① 環境・社会基盤開発工学ユネスコ講座 (埼玉大学工学部)
- ② ユネスコチェア国際研修「文化遺産と危機管理」
(立命館大学歴史都市防災研究所)
- ③ 持続可能な開発のための教育(ESD)と研究に関するユネスコ講座
(岡山大学大学院環境生命科学研究科)
- ④ ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策 (神戸大学)
- ⑤ 水・エネルギー・災害に関する京都大学ユネスコチェア(WENDI) (京都大学)
- ⑥ 地球環境災害軽減ユネスコチェア (島根大学)
- ⑦ 技学 SDG インスティテュート (長岡技術科学大学)
- ⑧ グローバル時代の健康と教育 (大阪大学)
- ⑨ 平和、社会正義、グローバル・シチズンシップのための教育における
UNESCO Chair (九州大学)
- ⑩ 生物圏保存地域を活用した持続可能な社会のための教育ユネスコチェア
(横浜国立大学)

ユニツイン／ユネスコチェア設立の審査基準(仮訳)
(2022年3月改訂ガイドラインより抜粋)

<必須条件>

ユニツイン／ユネスコチェアの申請は、以下の評価基準を全て満たす必要がある。

適格性

○**高等教育機関**: 国または地方自治体に認可等された高等教育機関からの提案であること。

※現時点においてユネスコ加盟国ではない国を含む全ての国の高等教育機関からの申請を受け付ける。

範囲／焦点

○**ユネスコ優先課題への貢献**: 中期戦略(2022-2029)と事業予算(2022-2025)に示されたユネスコの優先事業のうちの1つ以上に貢献すること。

アプローチ

○**統合的な取組**: 研究、教育／訓練、地域社会の関与を統合した実施計画を提案すること。

○**ユネスコ及びネットワークへの参画**: ユネスコチーム、他のユニツイン／ユネスコチェア、ユネスコネットワーク、ユネスコカテゴリーII センターやその他のパートナーと構築した(または構築することを予定している)パートナーシップを示すこと。

○**南南協力と三角協力**: 大学間ネットワークや協力を通じた南南協力や三角協力を行っていることを示すこと。

能力

○**必要な専門性**: 提案されたテーマにおいて、チェアホルダー／コーディネーターと実施メンバーが、質の高い刊行物の作成能力を含めた、教育的及び関係する専門性を有していることを示すこと。

○**大学間協力及びネットワーク形成の能力**: 他の高等教育機関と協力し、学術的な流動性・学生交流の機会を提供し、知識共有や普及活動を実施することができることを示すこと。

○**財務的持続可能性**: 4年計画で想定された活動を実施するため、十分な資金が確保されているか、確保する計画があること。

<望ましい条件>

以下の評価基準を一つ以上満たした申請が優先される。

高等教育機関もしくは研究機関

- (ユニツイン／ユネスコチェアの数が)不十分な国や地域:①ユニツイン／ユネスコチェアが無い国 ②アフリカ諸国 ③小島嶼開発途上国(SIDS)の機関
- 新たな機関:まだユニツイン／ユネスコチェアを設置していない機関。
- ジェンダー:女性のチェアホルダーを推薦している機関。

範囲／焦点

- 地理的範囲:取組が、多国間、地域間、国際的な範囲にわたっていること。プロジェクトの優先事項が、アフリカに焦点をあてている、及び/またはアフリカの利益に資するものであること。
- 学際的取組:取組が、学際的／複数領域にわたっていること。
- 未来志向の観点:取組が、先見性を持ち未来志向であること。
- 新たなテーマ:提案が、その国の他のユネスコチェアによって扱われていないテーマに取り組むものであること。

アプローチ

- ジェンダーレンズ:提案が、明確にジェンダー平等の問題に取り組むことを目的とした活動を伴った、ジェンダーに配慮した取組を含んでいること。